

2020年度 地域課題解決調査研究事業

多機関連携による

南相馬市の子ども支援体制の構築（PHASE 2）

—報告書—

大阪大学・中丸 和 （2020年5月）

目次

1. 調査の背景	2
2. 調査研究の概要	2
3. 調査により明らかになった課題・ニーズ	4
4. 課題解決に向けた方策・今後の展望	5

1. 調査の背景

本調査は、みなみそうま復興大学を通じて市を訪問する学生の数が増加傾向にある一方で、その連携が十分でないことを問題意識として、多機関連携による連携を通した子ども支援体制の構築をめざすためのものである。昨年度採択された地域課題解決調査研究事業では、その第一歩として大阪大学と NPO 法人日本教育再興連盟、南相馬市内の生涯学習センターや学校現場とが連携して子ども支援事業を行った。

本年度は、「多機関連携による南相馬市の子ども支援体制の構築（PHASE 2）」として、特に子どもたちの課題やニーズの把握に着目した調査事業を実施することとした。これは、（1）南相馬市内の地域ごとでの子どもたちの課題やニーズの把握が細かく行われていないこと、（2）新型コロナウイルス感染症流行によって新たなニーズが発生していると考えられるがその把握が具体的になされていないことの主に 2 点を理由として、連携する際にそれぞれの機関の特性を生かした支援活動が実施しづらい状況にあるという課題を背景としている。

本調査事業を通して、子ども支援の細やかなニーズが把握され、南相馬市内で活動する団体間での連携を行っていく上で、より適切なニーズと支援活動・連携のマッチングが可能になることを目指した。また、適切なニーズ把握と支援団体のマッチングによって、機動的かつ切れ目のない支援を実現していくことが期待される。

2. 調査研究の概要

本調査研究は 2020 年 8 月に学習支援活動を中心とした子ども支援活動を、複数団体と連携しながら実施するとともに、子どもたちの課題やニーズに関する調査を行い、2021 年 3 月にそのニーズ調査を活かしたワークショップ等を行なう予定であった。しかしながら、新型コロナウイルス感染症流行の長期化に伴い、予定通り連携予定であった団体（NPO 法人日本教育再興連盟）所属の関東・関西在住学生を南相馬市にボランティアとして派遣して活動を行なうことは非常に困難な状況となってしまった。そのような状況を受けて、本年度は、2020 年 8 月に NPO 法

人日本教育再興連盟等と連携してオンラインでの学習支援やワークショップを開催した。一方、ニーズ調査に関しては子どもだけが入室するオンライン学習支援と並行して実施することは難しく、8月中に実施することができなかった。そのため、調査代表者が感染症対策を講じた上で2021年2月および3月に南相馬市を訪問して子ども支援におけるニーズに関する聞き取りを行なった。そのニーズ調査を受け、3月にはNPO法人日本教育再興連盟と連携して南相馬市の子ども向けにオンラインで京都ツアーを擬似体験できるコンテンツを作成した。

以上の活動に並行して、資料収集等も行い、子どものニーズ等に関する今後の課題や展望をまとめた。

次ページ以降では、調査により明らかとなったニーズ等をまとめるとともに、そのニーズに応答する事業の一つとして実施したオンライン京都ツアーの概要について記載する。

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、なかなか思うような活動を実施することが叶わなかったが、そのような中でも南相馬市のみなさまにご協力いただいたこと感謝の念に堪えません。

本年度までの調査等を踏まえ、今後より多くの団体との連携を深めながら、適切にニーズに応答していけるよう引き続き活動を実施していきたいと思う。

3. 調査により明らかになった課題・ニーズ

- 新型コロナウイルス感染症に関わること

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、支援団体間の連携より先にそもそも支援団体が支援活動を実施することが難しい状況となっている。

- ・オンラインでの支援活動の実施も可能である一方で、オフラインに比べてオンラインでの活動には子どもがなかなか参加しづらい状況がある。

- 多様なニーズ

- ・小高区では児童生徒数の減少が大きく、子どもたち同士が他地域の子どもも含めて一定以上の人数で協働して何かに取り組む活動などが求められている。

- ・支援団体の参入が難しい年ではあったものの、地域の子どもたちには一定のニーズが存在している。

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、学習の機会だけでなく、特に地域を超えた人の移動が前提となっている旅行や他地域の人との触れ合いによる学びの機会が減少している

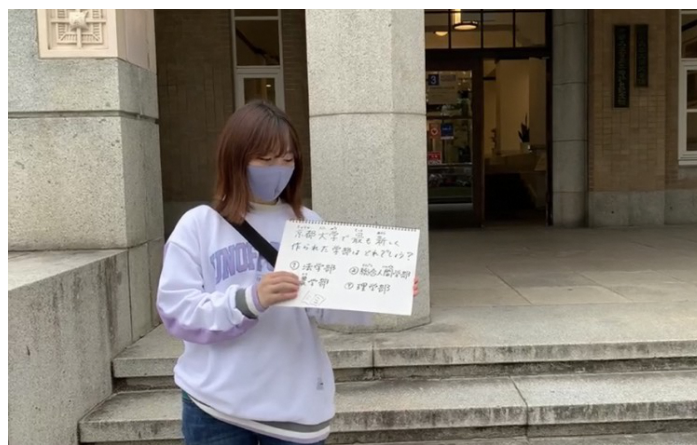
- ・オンラインでの活動参加に欠かせない、タブレットやパソコンの使用について、特に子どもたちの間ではパソコンの使用に難しさを感じており、その使用方法などを学ぶ機会が欲されている。

以上のような課題・ニーズの存在が明らかになったため、その解決の一施策として、特に「地域を超えた人の移動が前提となっている旅行や他地域の人との触れ合いによる学びの機会が減少していること」に着目して次のような事業を実施した。

オンライン京都ツアー

「オンライン京都ツアー」は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から他地域の学生が直接南相馬市に訪問することが難しいなかで、他地域のことを学ぶことができる機会を提供しようとするものである。具体的には、京都市内の大学や寺社をオンライン上で巡り、クイズ等を混えながら、旅行気分を味わうとともに大学や歴

史について学ぶことのできるオンラインワークショップである。本事業は、NPO 法人日本教育再興連盟の関西支部所属の学生と連携して行なった。



4. 課題解決に向けた方策・今後の展望

ニーズ調査を受けて実施したオンライン京都ツアーでは、オンラインでも様々な支援活動を実施することの可能性を見出すことができた。しかしながら、課題点でも挙げていたが、オンラインで子どもたちが活動に参加するのはオフラインと比較してハードルが高いことが再認識された。ただし、新型コロナウイルス感染症流行下ではオフラインでの活動は難しいため、オンライン上で一層活動の質を高めることも必要である。オンラインでのコンテンツを増加させていくと同時に、オフラインで活動できる団体等との連携を組み合わせることで、丁寧にニーズに回答し

ていくことが可能になると考えられる。2021年も感染症の影響は強いままであるが、2020年の活動等を踏まえて多機関連携を通した子ども支援体制の充実を図っていきたい。